

# 岡山県感染症週報 2016年 第20週 (5月16日～5月22日)

## ◆2016年 第20週 (5/16～5/22) の感染症発生動向 (届出数)

### ■全数把握感染症の発生状況

第19週 5類感染症 アメーバ赤痢 1名(70代 女)  
急性脳炎 1名(幼児 女)

第20週 2類感染症 結核 7名(幼児 男 1名、10代 男 1名、20代 女 4名、80代 男 1名)

### ■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点84、小児科定点54、眼科定点12、STD定点17、基幹定点5

○感染性胃腸炎は、県全体で375名(定点あたり6.22→6.94人)の報告があり、前週よりわずかに増加しました。




○流行性耳下腺炎は、県全体で86名(定点あたり1.54→1.59人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。

○伝染性紅斑は、県全体で31名(定点あたり0.30→0.57人)の報告があり、前週より増加しました。

- 感染性胃腸炎**は、県全体で375名(定点あたり6.22→6.94人)の報告があり、前週よりわずかに増加しました。地域別では、美作地域(10.33人)、真庭地域(9.00人)、倉敷市(8.55人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。ひきつづき手洗いの徹底や下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など詳しくは、「[感染性胃腸炎週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2015/2016年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。
- 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)**は、県全体で86名(定点あたり1.54→1.59人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。過去10年間の同時期と比較して報告数が多い状態がつづいています。地域別では、岡山市(3.79人)、備北地域(3.75人)、倉敷市(0.73人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、備北地域では、発生レベル3が継続しています。また、岡山市では、第18週(5/2～5/8)から3週連続して増加しており、発生レベル2となりました。この感染症は、予後は一般に良好ですが、まれに無菌性髄膜炎、感音性難聴、精巣炎などの合併症を引き起こすことがあり、年齢が高くなるにつれて症状が重くなる傾向があります。効果的に予防する唯一の方法は、ワクチンを接種することです。
- 伝染性紅斑(リンゴ病)**は、県全体で31名(定点あたり0.30→0.57人)の報告があり、前週より増加しました。過去10年間の同時期と比較して多くなっています。地域別では、美作地域(1.17人)、倉敷市(1.09人)、備前地域(0.90人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、特に倉敷市(0.27→1.09人)、備前地域(0.20→0.90人)で大きく増加しました。この感染症は、特徴的な両頬の発しんが出現する7～10日前に、微熱や咳などの風邪の様な症状がみられることがあり、この時期にウイルスの排出量が最も多くなります。妊娠中、特に妊娠初期に感染した場合は、胎児異常(胎児水腫)や流産の危険があります。妊娠中の方は、伝染性紅斑が周囲で流行している時、風邪の症状がある人に出来るだけ近づかないよう注意が必要です。また、家庭内に感染した人がいる場合は、必ず産婦人科で相談しましょう。

## 流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↘	★	RSウイルス感染症	↗	★
咽頭結膜熱	↗	★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	★
感染性胃腸炎	↗	★	水痘	↗	★
手足口病	↗	★	伝染性紅斑	↗	★★★★★
突発性発疹	↘	★	百日咳	↗	
ヘルパンギーナ	↗	★	流行性耳下腺炎	↗	★★★★★
急性出血性結膜炎	↗		流行性角結膜炎	↘	★
細菌性髄膜炎	↗		無菌性髄膜炎	↘	
マイコプラズマ肺炎	↗	★	クラミジア肺炎	↗	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↗		* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。		

【記号の説明】 前週からの推移：  
 : 2倍以上の減少  
 : 1.1～2倍未満の増加  
 : 1.1～2倍未満の減少  
 : 2倍以上の増加  
 : 1.1未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

空白：発生なし ★：僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

# 6 / 1 ~ 6 / 7 は『H I V検査普及週間』です

— 受けよう！エイズ検査 愛する人のために、そして自分のために —



レッドリボン  
エイズに対する理解と  
支援の象徴

岡山県は、平成 25 年度から『受けやすい検査』『戦略的な普及啓発』『関係者の連携強化』を 3 本柱に、全県を挙げて、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）感染防止と「いきなりエイズ<sup>\*</sup>」防止に取り組む、「おかやまエイズ感染防止作戦」を実施しています。その作戦の重点実施期間として「HIV 検査普及週間（6/1～6/7）」には、県内の保健所・支所において、即日検査や夜間・休日検査の追加実施を行います。

※「いきなりエイズ」とは、AIDS（後天性免疫不全症候群）発症によって初めて HIV に感染したことが判明することです。HIV 感染後 AIDS 発症まで、通常数年程度の期間を要するとされていますが、近年発症の早い症例もみられています。

## 1. 全国の新規 HIV 感染者と新規 AIDS 患者

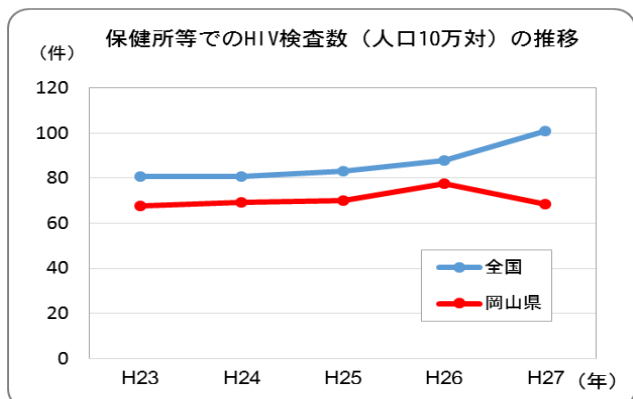
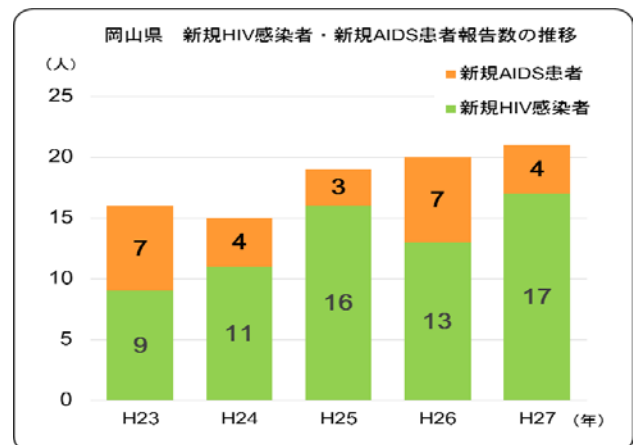
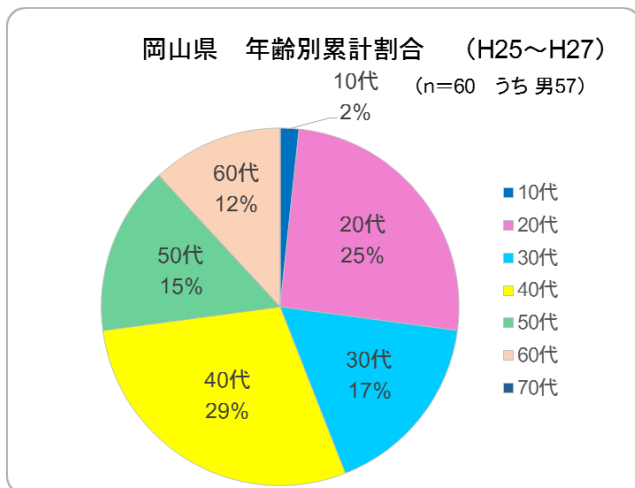
平成 27 年の国内における新規 HIV 感染者及び新規 AIDS 患者（いきなりエイズ）報告数は 1,413 件（速報値）で、前年より減少しました。一方で、新規 AIDS 患者報告数（いきなりエイズ）は、全新規報告数の約 3 割のままと減少がみられないことから、HIV 検査が未だ十分に行き届いていないことが示唆されています。

**新規 HIV 感染者** …… 感染症法の規定に基づく後天性免疫不全症候群発生届により、無症候性キャリアあるいはその他として報告されたもの。

**新規 AIDS 患者（いきなりエイズ）** …… 受診時、すでに AIDS を発症しており、感染症法の規定に基づく後天性免疫不全症候群発生届により、AIDS 患者として報告されたもの（既に HIV 感染者と報告されている症例が AIDS を発症する等病状に変化を生じた場合は除く。）

## 2. 岡山県の新規 HIV 感染者と新規 AIDS 患者

新規 HIV 感染者及び新規 AIDS 患者は、20～40 代の男性を中心に発生が多くなっており、平成 27 年は 21 件の報告がありました。その内「いきなりエイズ」が 4 件と、前年より減少はしたものの、岡山県内で自発的に HIV 検査を受けた人の数は、ほぼ横ばいで推移しており、全国と比較しても大幅に少ない状況です。



### 3. HIV 検査について

AIDS は、HIV に感染してから発症まで数年程度と、ある一定期間自覚症状がない時期が続くため、感染していることに気づきにくく、知らないうちに大切な人にうつしてしまう可能性があります。また、HIV 治療は急速に進歩しており、早期に感染を知り発症する前に適切な治療を開始できれば、定期的に通院しながら今までとほぼ同じ生活を送ることが可能です。HIV に感染しているかどうかは、HIV 検査を受けないとわかりません。早期発見・早期治療が AIDS 発症防止や感染拡大防止にも結びつくことから、保健所（無料・匿名）や拠点病院（一律 1,000 円）などでの HIV 検査を積極的に利用することが望まれます。

## HIV 検査普及週間（6 月 1 日～6 月 7 日）では、 岡山県内の保健所・支所で、 定例日以外や夜間等に検査を実施しています。

- \* 検査は無料・匿名で受けることができます。
- \* 通常検査では 1 週間後、迅速検査では 1 時間後に結果をお知らせしています。
- \* 岡山県の保健所（岡山市・倉敷市を除く）では、梅毒・性器クラミジア・B 型肝炎・C 型肝炎の検査も同時に受けることができます。
- \* 検査には、感染機会のあった日から、3 ヶ月経過していることが必要です。
- \* いずれの保健所も予約が必要です。

○県内 11 カ所の保健所・支所における HIV 検査普及週間関連検査の日時、  
予約方法などはこちらから

[【 平成 28 年度保健所における HIV 検査普及週間関連検査等実施日時 】](#)

県内 10 カ所のエイズ治療拠点病院でもエイズ検査が受けられます。

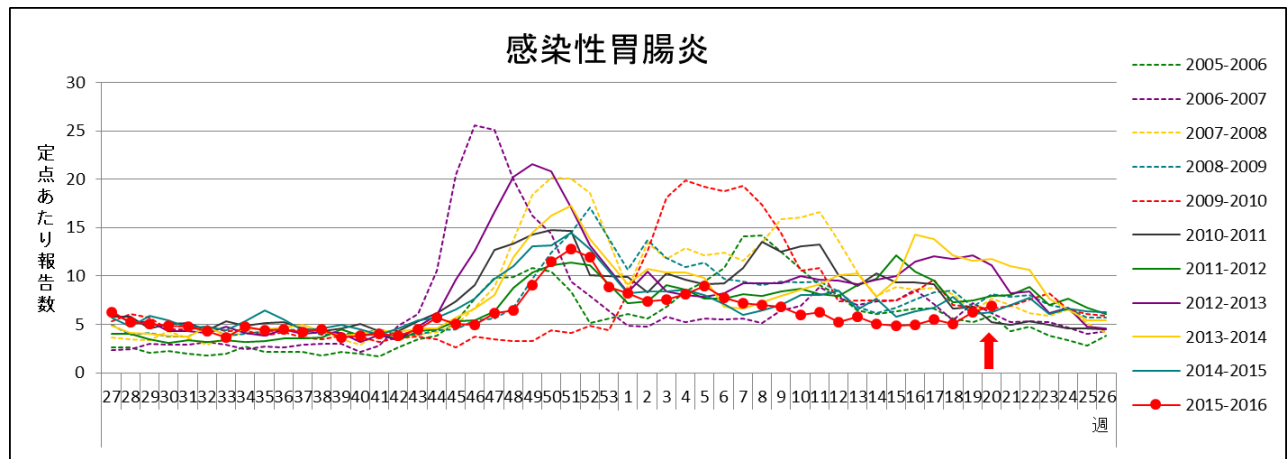
○エイズ治療拠点病院における検査日時はこちらから

[【 平成 28 年度 エイズ治療拠点病院における HIV\(エイズ\)検査実施日時 】](#)

- \* いずれの拠点病院でも一律 1,000 円で受けられます（要予約）。
- \* 検査は匿名では受けられませんが、結果は検査を受けた日（約 1～2 時間後）にお知らせしています。
- \* 検査には、感染の機会のあったと思われる日から、8 週間以上経過していることが必要です。

# 感染性胃腸炎週報 2016年 第20週 (5月16日 ~ 5月22日)

○感染性胃腸炎は、県全体で375名（定点あたり6.22 → 6.94人）の報告がありました。（54定点医療機関報告）

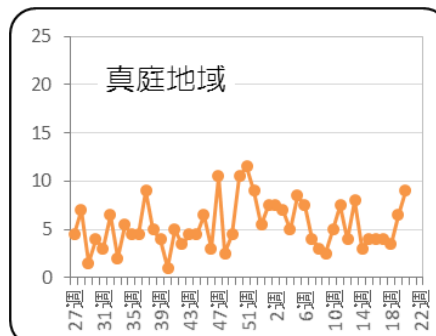
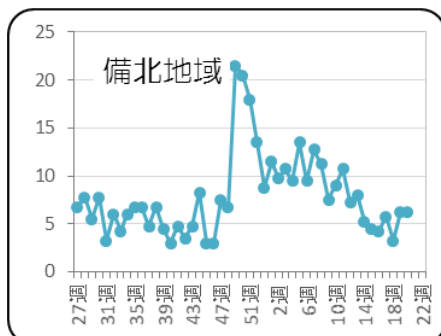
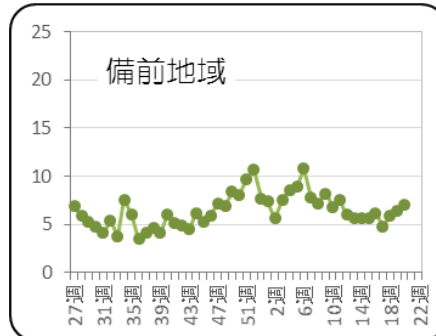
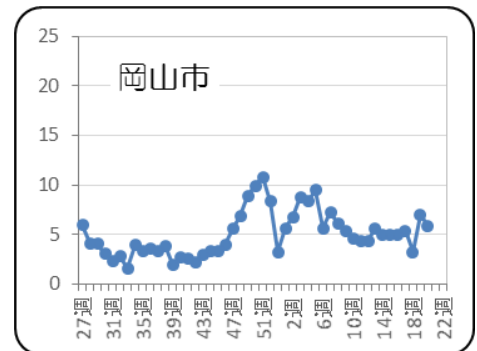
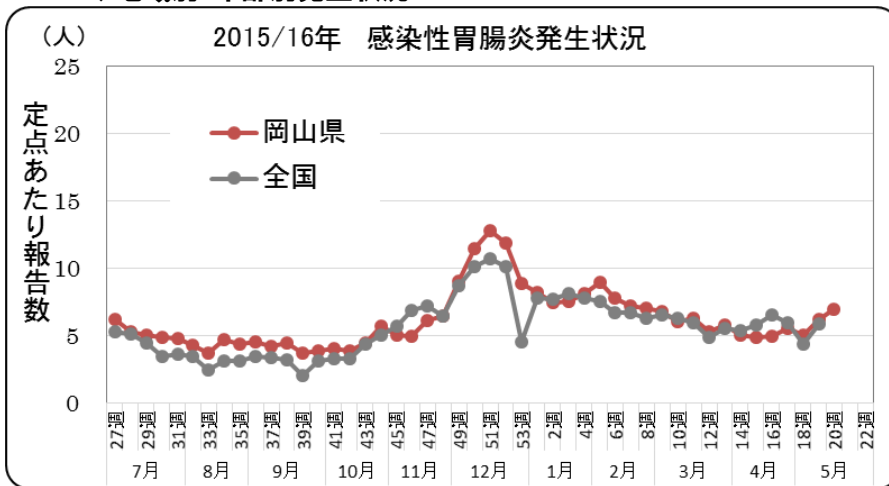


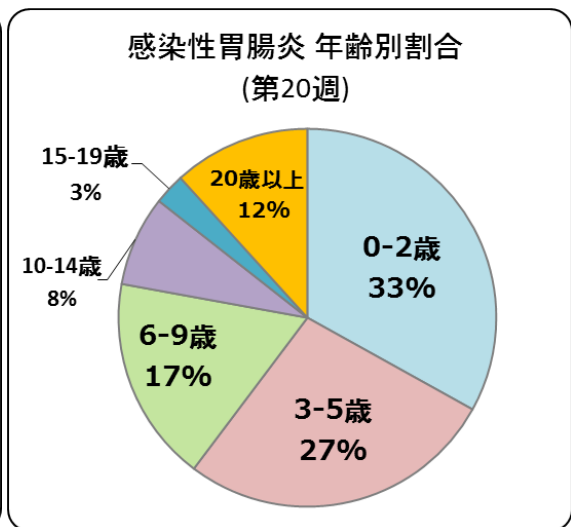
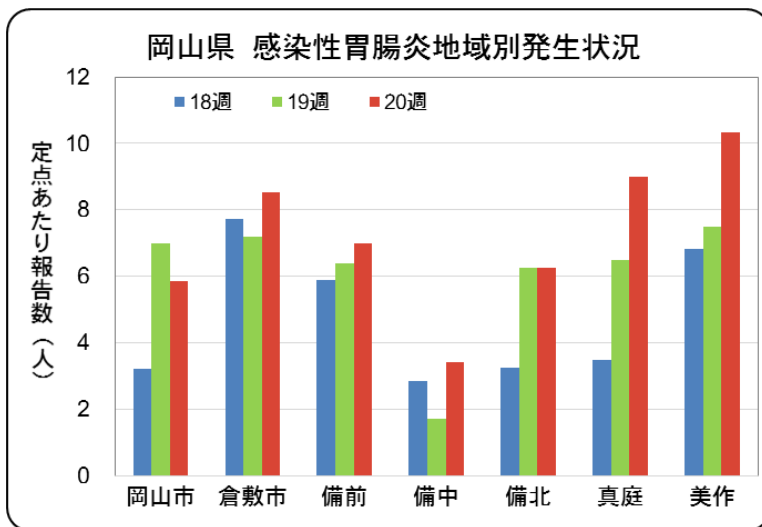
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27週～翌年26週でグラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、県全体で375名（定点あたり6.22 → 6.94人）の報告があり、前週よりわずかに増加しました。

冬から春にかけての感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるものが多いとされています。排便後、調理・食事の前には石けんと流水で十分に手を洗う、下痢便・おう吐物を適切に処理するなど、感染予防と拡大防止に努めてください。

## ◆地域別・年齢別発生状況





地域別では、美作地域（10.33人）、真庭地域（9.00人）、倉敷市（8.55人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。特に美作地域（6.83 → 7.50 → 10.33人）、真庭地域（3.50 → 6.50 → 9.00人）では、2週連続して大きく増加しました。第20週年齢別割合では、0-2歳 33%、3-5歳 27%、6-9歳 17%の順となっています。

例年3~5月には、0~2歳の乳幼児を中心にロタウイルスによる胃腸炎が増加するとされています。主な症状はおう吐と下痢で、ノロウイルスによる胃腸炎に比べ重症度が高いといわれています。おう吐や下痢により脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

[ロタウイルスに関するQ&A（厚生労働省）](#)

[ノロウイルスに関するQ&A（厚生労働省）](#)

## ◆◆ ノロウイルスに感染しないためには ◆◆

### 1. 最も大切なことは手を洗うことです。

排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

### 2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理するときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、おう吐物をペーパータオル等で静かに拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをします。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。

### 3. おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、**85℃で1分以上の熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**での消毒が有効です。

おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、付着した汚物を除去し、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗いした後、熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

※塩素系漂白剤の使用に当たっては「使用上の注意」を確認しましょう。

### 4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。（中心部を85~90℃で90秒間以上）

二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。

保健所別報告患者数 2016年 20週(定点把握)

( 2016/05/16~2016/05/22 )

2016年5月26日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	21	0.25	1	0.05	3	0.19	1	0.07	4	0.33	6	1.00	-	-	6	0.60
RSウイルス感染症	4	0.07	1	0.07	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.33
咽頭結膜熱	26	0.48	9	0.64	1	0.09	-	-	7	1.00	5	1.25	-	-	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	65	1.20	12	0.86	20	1.82	2	0.20	10	1.43	2	0.50	-	-	19	3.17
感染性胃腸炎	375	6.94	82	5.86	94	8.55	70	7.00	24	3.43	25	6.25	18	9.00	62	10.33
水痘	11	0.20	4	0.29	4	0.36	-	-	-	-	2	0.50	-	-	1	0.17
手足口病	4	0.07	-	-	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
伝染性紅斑	31	0.57	2	0.14	12	1.09	9	0.90	-	-	1	0.25	-	-	7	1.17
突発性発疹	19	0.35	8	0.57	4	0.36	-	-	3	0.43	2	0.50	-	-	2	0.33
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	13	0.24	4	0.29	4	0.36	-	-	4	0.57	-	-	-	-	1	0.17
流行性耳下腺炎	86	1.59	53	3.79	8	0.73	6	0.60	1	0.14	15	3.75	-	-	3	0.50
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	0.25	-	-	-	-	3	3.00	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

( - : 0 or 0.00 ) ( 空白 : 定点なし )

保健所別報告患者数 2016年 20週（発生レベル設定疾患）

（2016/05/16～2016/05/22）

2016年5月26日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	21	0.25	1	0.05	3	0.19	1	0.07	4	0.33	6	1.00	-	-	6	0.60
咽頭結膜熱	26	0.48	9	0.64	1	0.09	-	-	7	1.00	5	1.25	-	-	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	65	1.20	12	0.86	20	1.82	2	0.20	10	1.43	2	0.50	-	-	19	3.17
感染性胃腸炎	375	6.94	82	5.86	94	8.55	70	7.00	24	3.43	25	6.25	18	9.00	62	10.33
水痘	11	0.20	4	0.29	4	0.36	-	-	-	-	2	0.50	-	-	1	0.17
手足口病	4	0.07	-	-	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
伝染性紅斑	31	0.57	2	0.14	12	1.09	9	0.90	-	-	1	0.25	-	-	7	1.17
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	13	0.24	4	0.29	4	0.36	-	-	4	0.57	-	-	-	-	1	0.17
流行性耳下腺炎	86	1.59	53	3.79	8	0.73	6	0.60	1	0.14	15	3.75	-	-	3	0.50
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	0.25	-	-	-	-	3	3.00	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3  
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2016年 第20週 2016/05/16～2016/05/22 )

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	21	1	-	-	2	-	1	1	-	3	2	-	3	4	1	2	-	1	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	4	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	26	-	6	6	3	6	3	1	-	1	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	65	-	-	2	7	6	6	7	8	6	3	9	6	1	4
感染性胃腸炎	375	7	24	54	39	32	33	37	21	20	17	8	29	10	44
水痘	11	-	-	-	1	2	-	3	2	1	1	-	1	-	-
手足口病	4	-	1	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
伝染性紅斑	31	-	-	-	2	4	6	5	3	5	2	2	2	-	-
突発性発疹	19	1	10	4	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	13	-	1	7	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	86	-	-	7	9	8	8	22	7	8	3	4	9	-	1

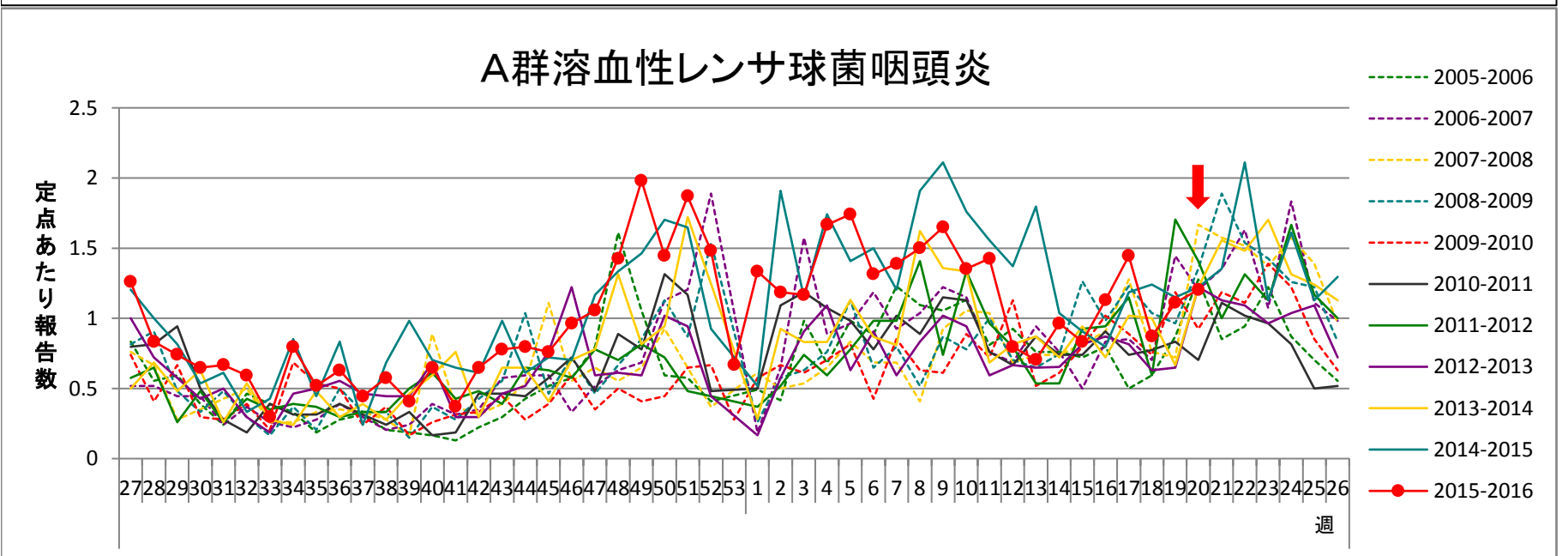
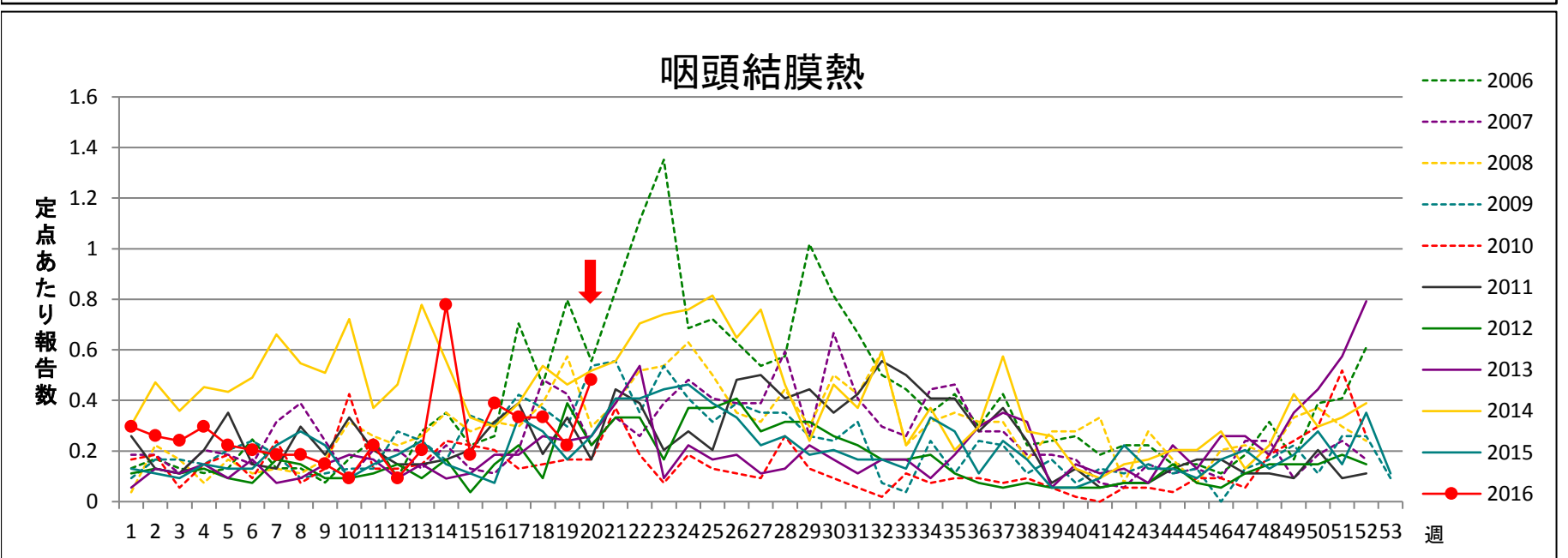
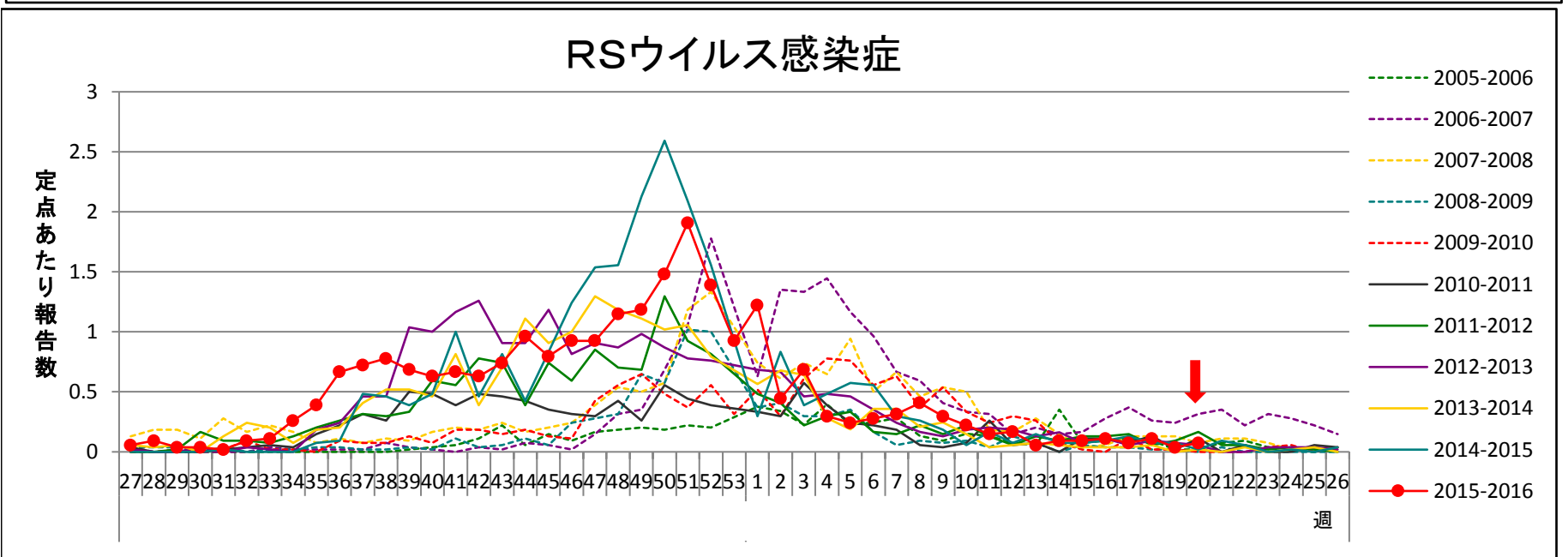
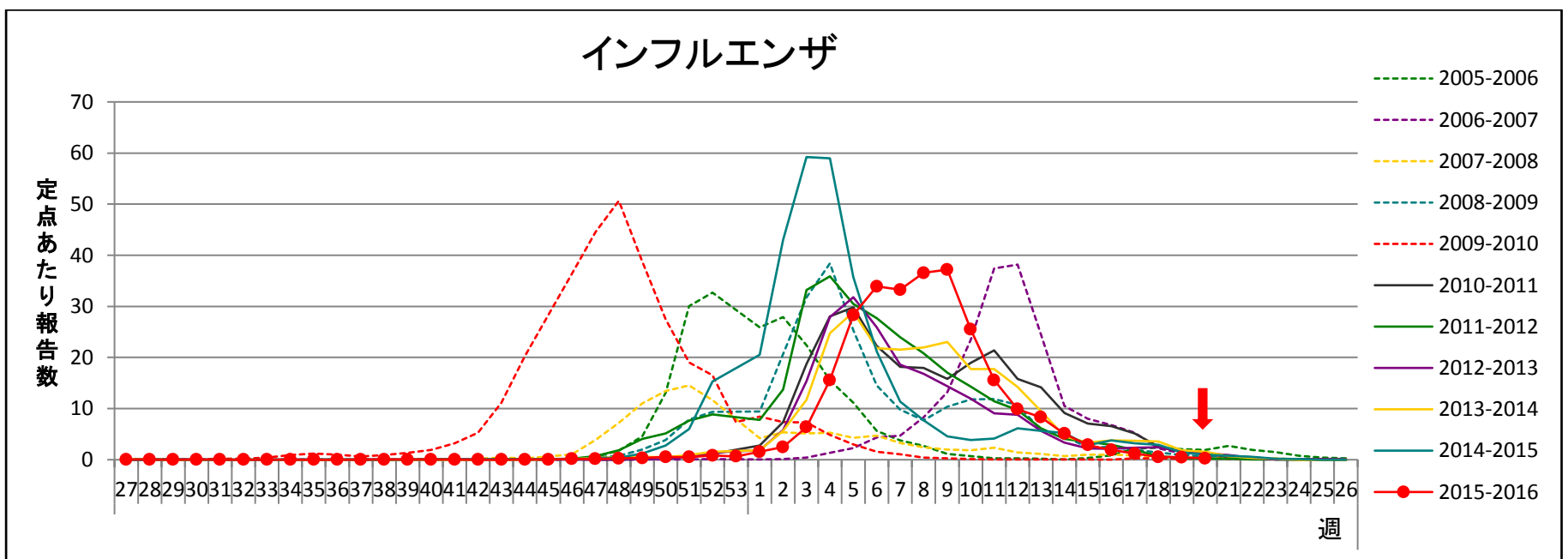
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

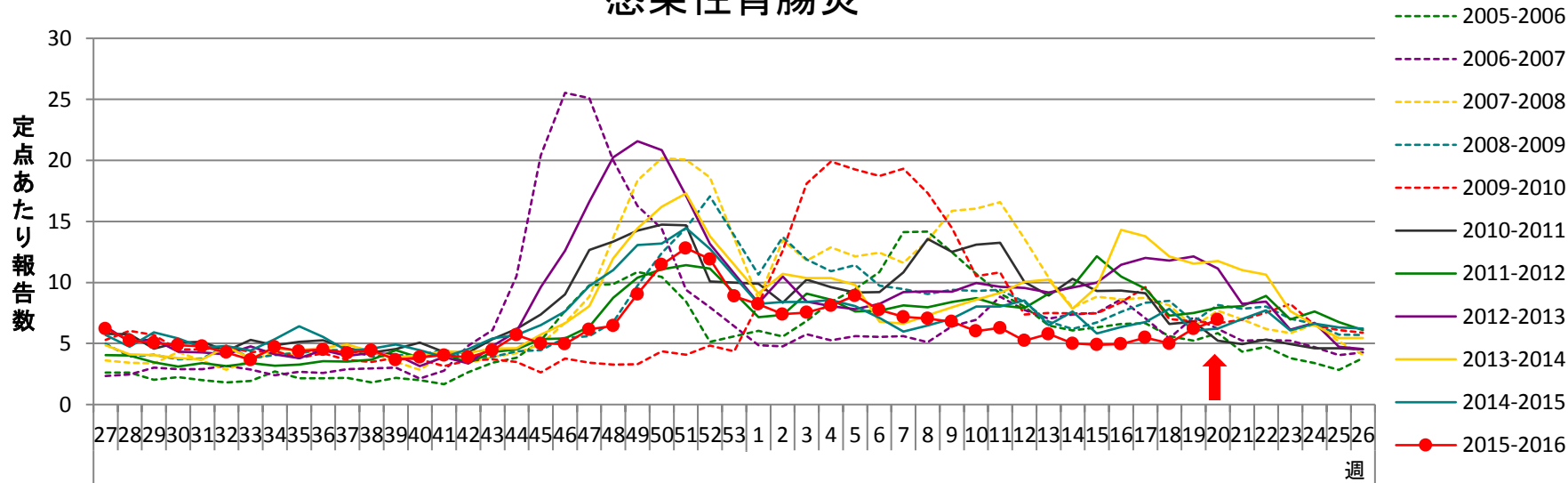
( - : 0 )



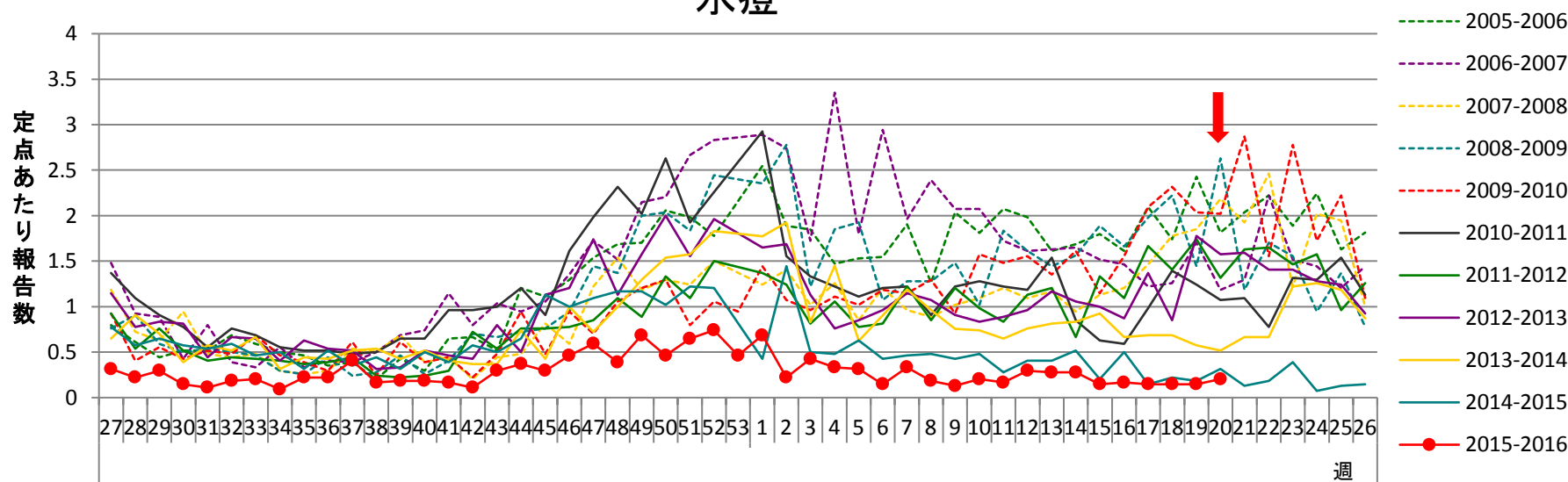




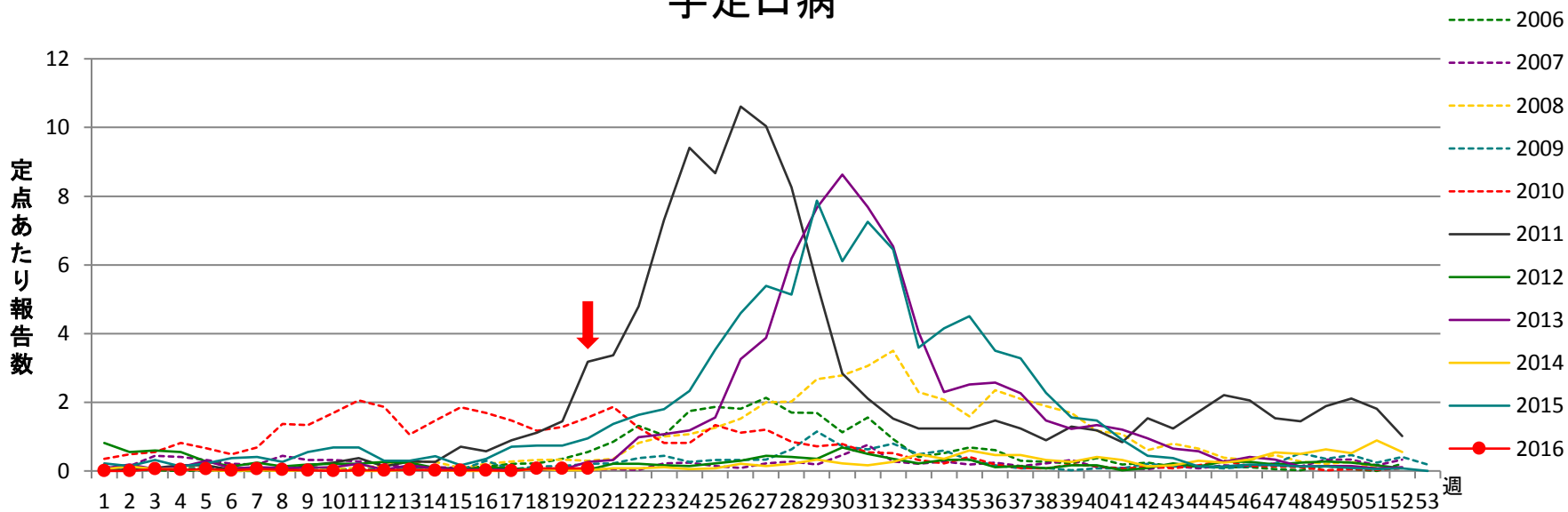
### 感染性胃腸炎



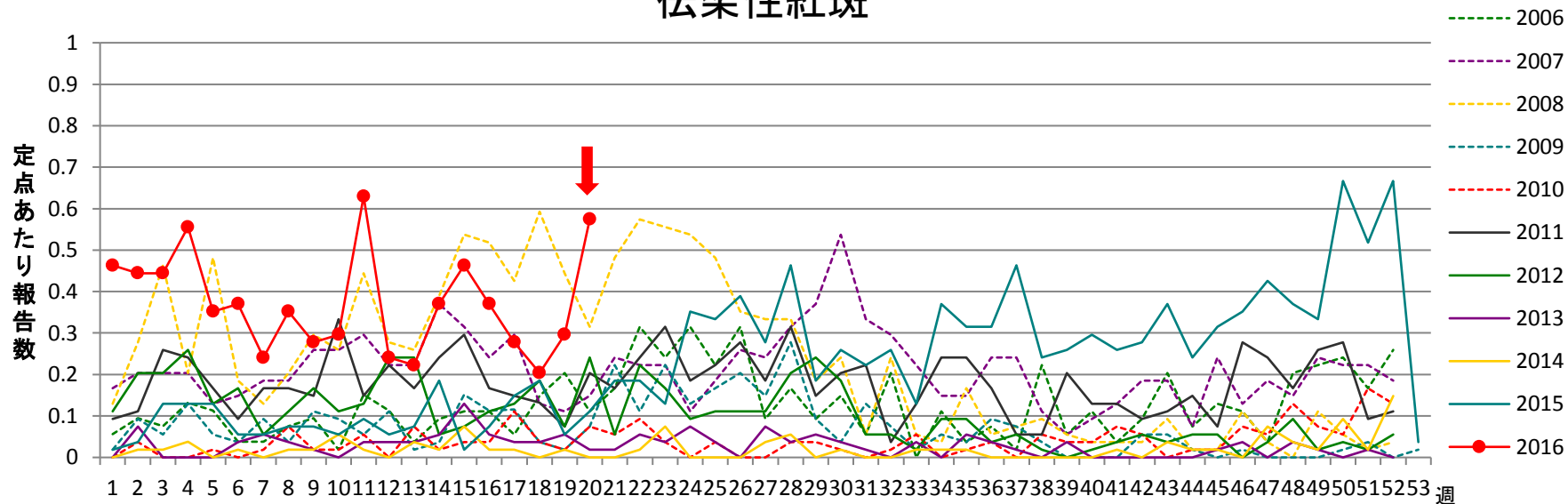
### 水痘



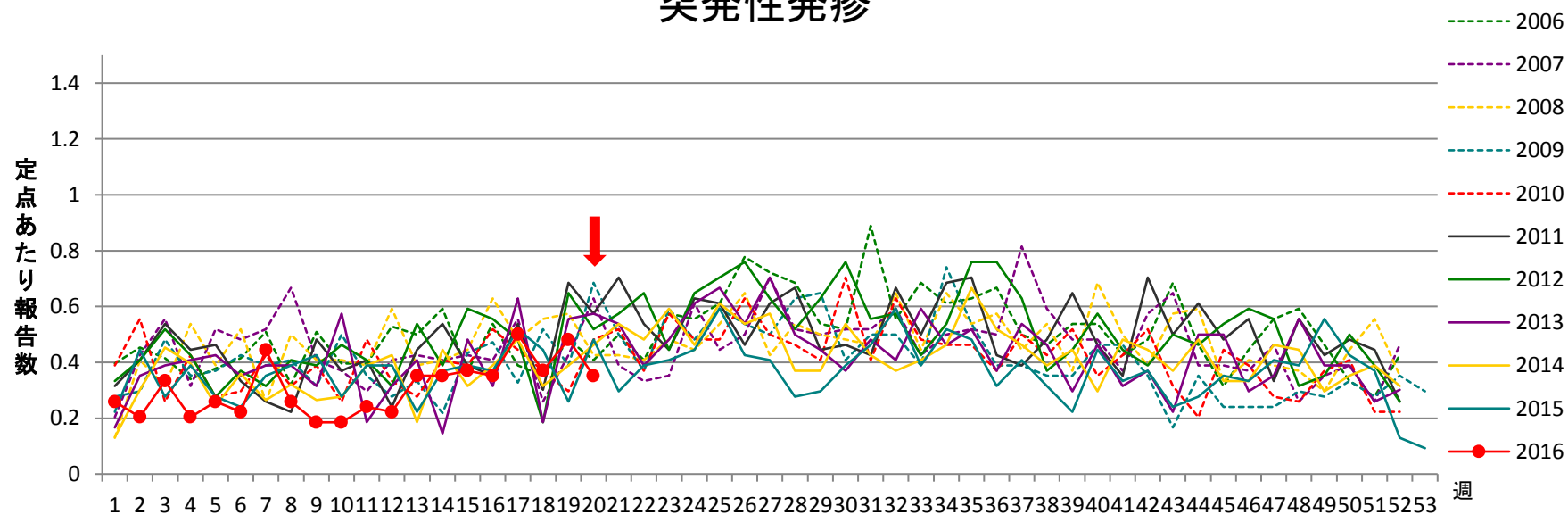
### 手足口病



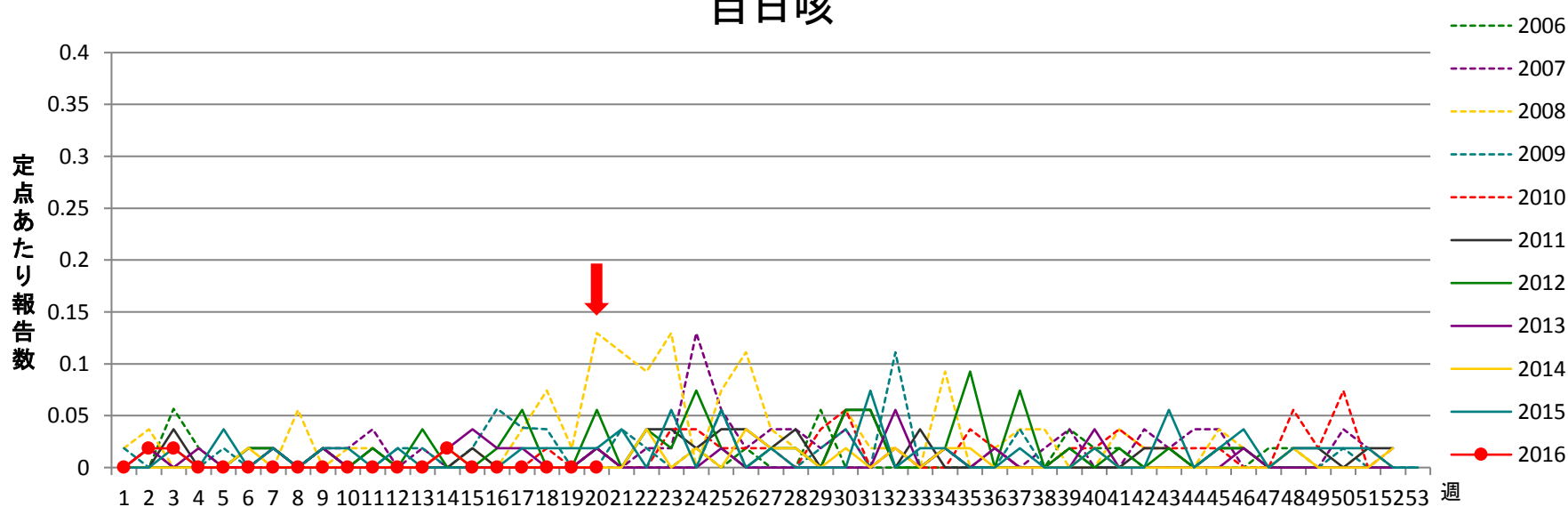
### 伝染性紅斑



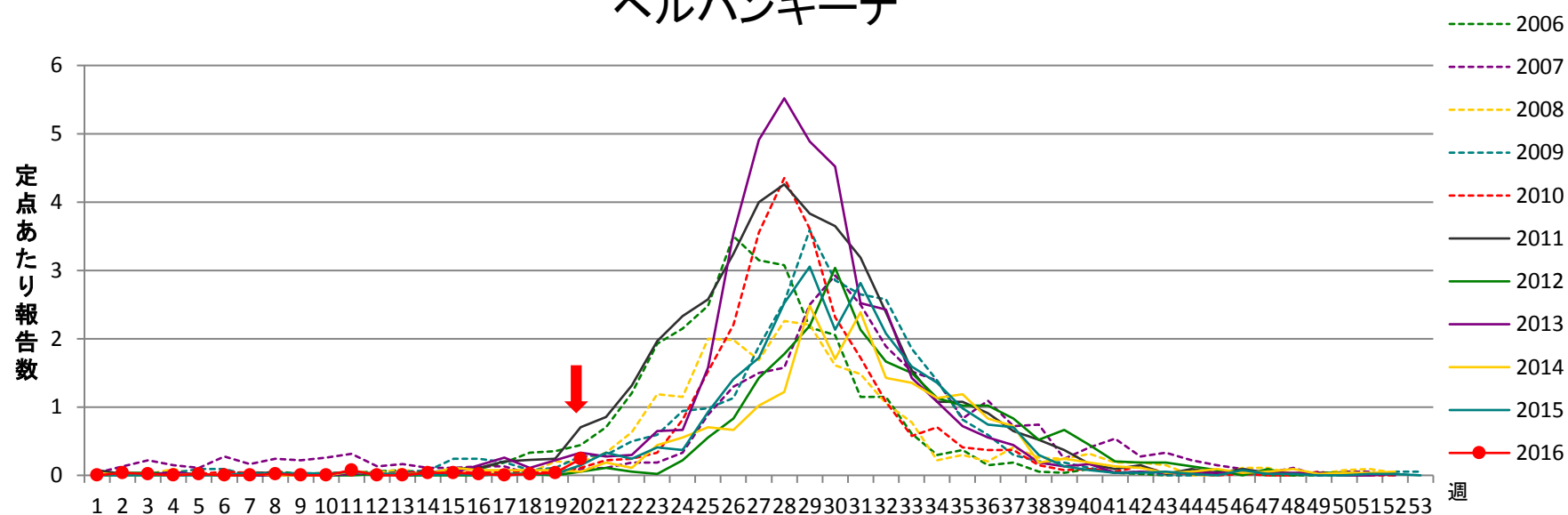
### 突発性発疹



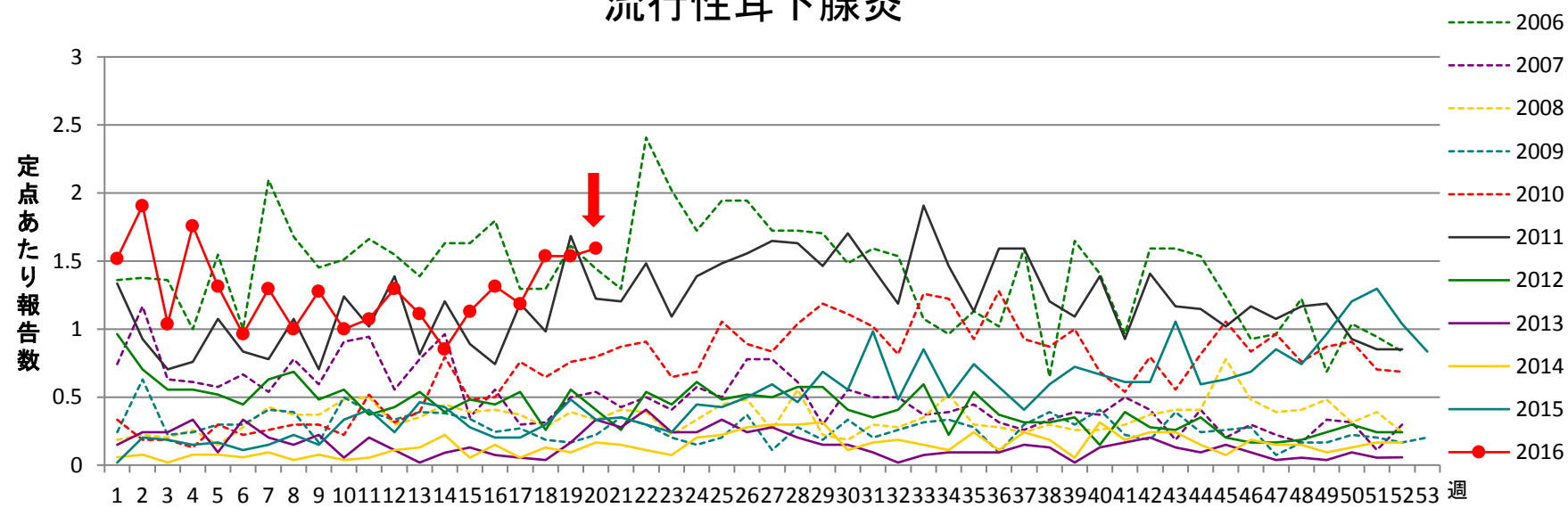
### 百日咳



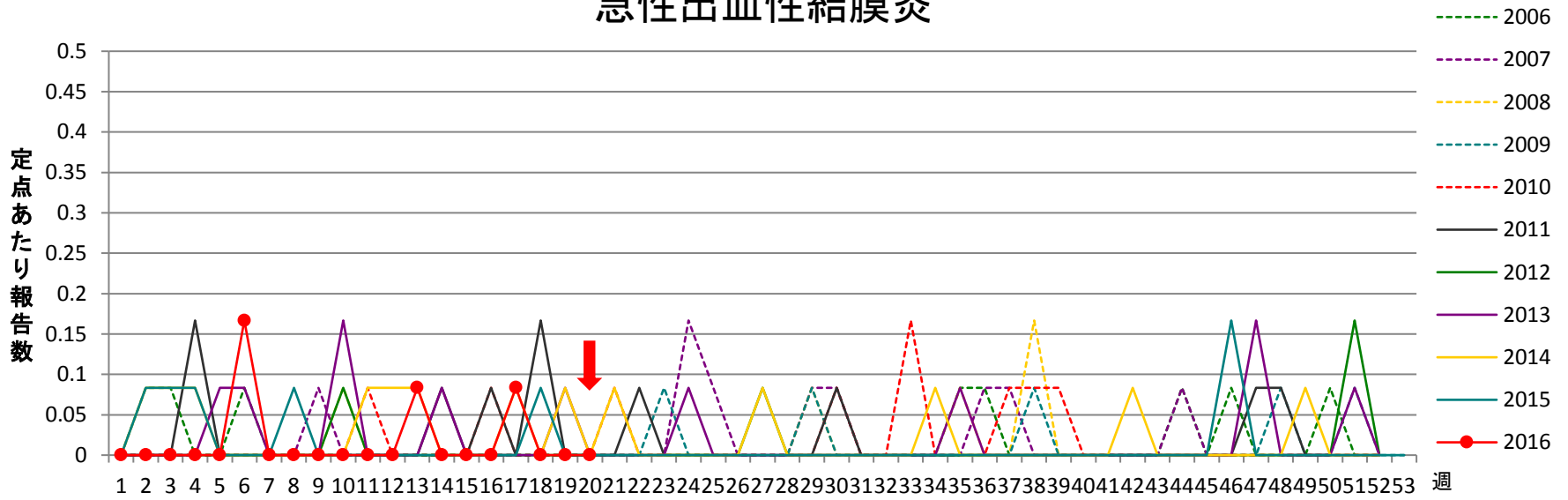
### ヘルパンギーナ



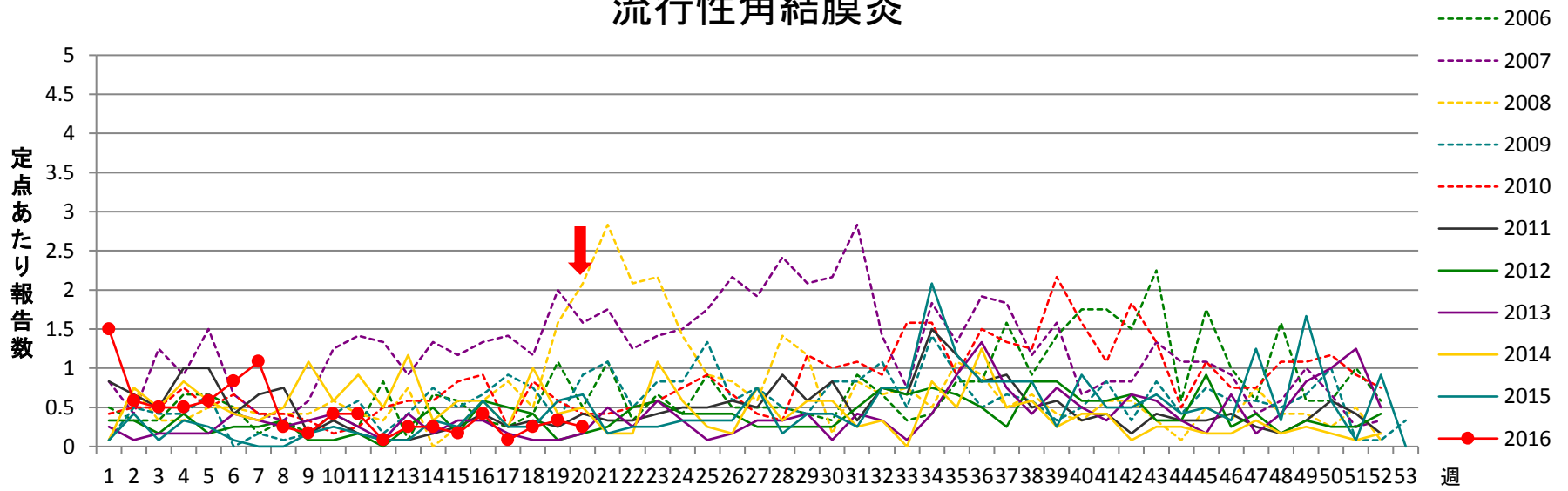
### 流行性耳下腺炎



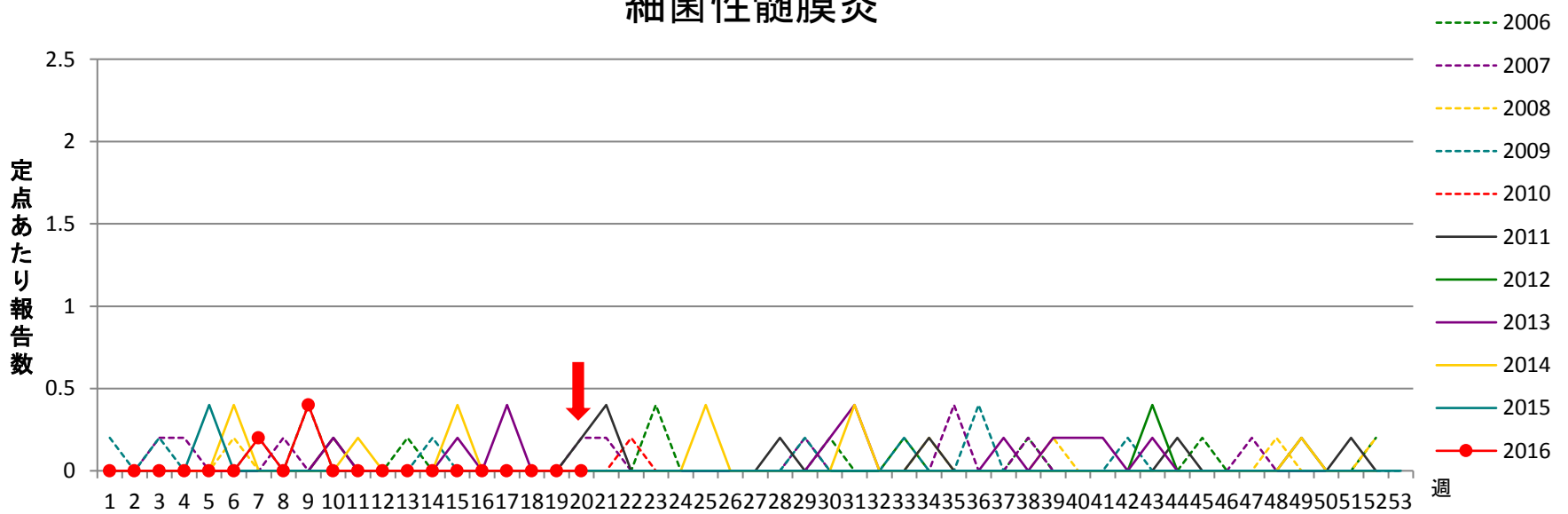
### 急性出血性結膜炎



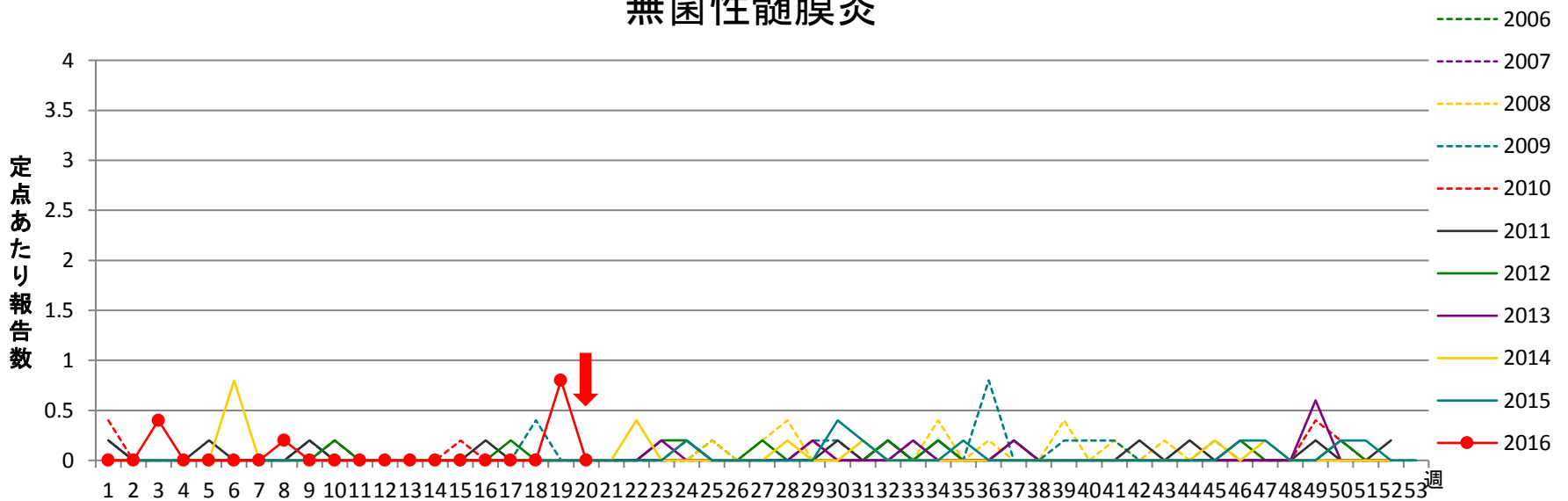
### 流行性角結膜炎



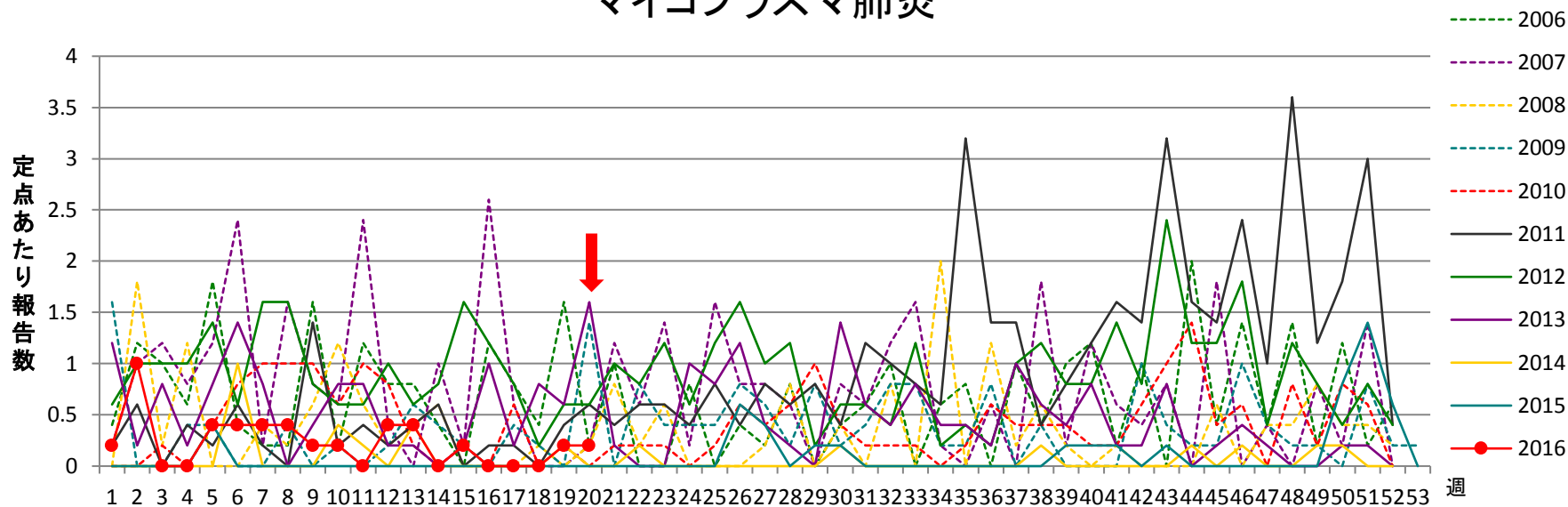
### 細菌性髄膜炎



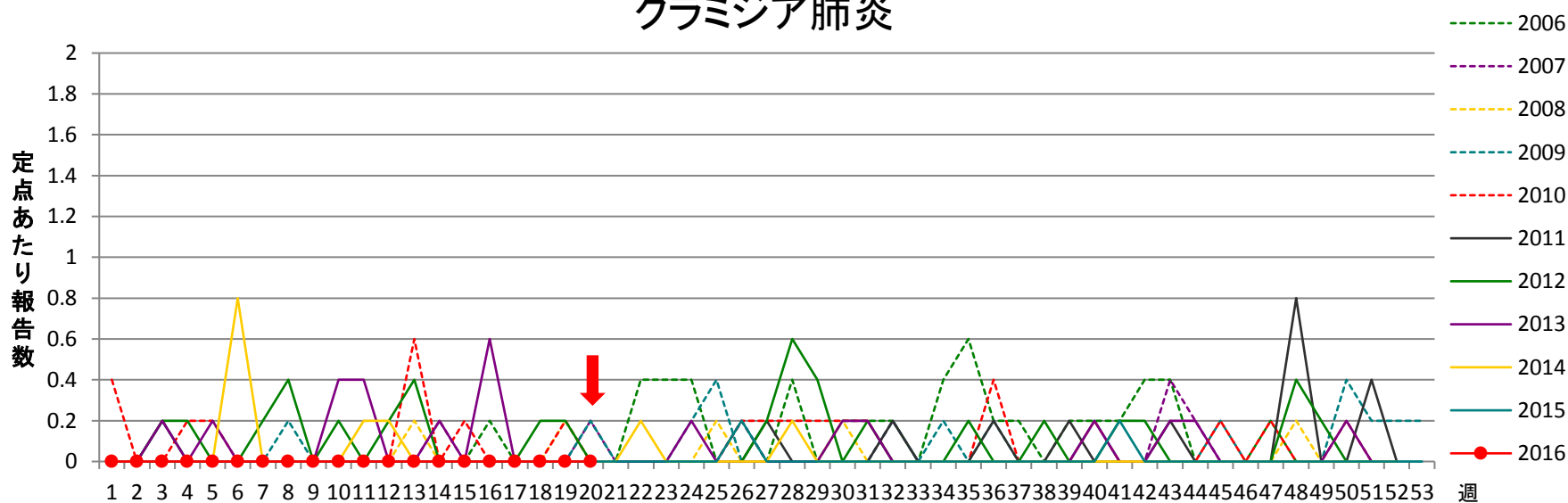
### 無菌性髄膜炎



### マイコプラズマ肺炎



### クラミジア肺炎



### 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

